九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

歴史と環境 ： 歴史地理学の可能性を探る

溝口, 常俊
名古屋大学大学院環境学研究科 ： 教授

阿部, 康久
九州大学大学院比較社会文化研究院社会情報部門 ： 准教授

https://hdl.handle.net/2324/1398514

出版情報：2012-12-20. 花書院
バージョン：
権利関係：

あ と が き

名古屋大学地理学教室は，文学部に所属していた2000年まで，文学部棟の３階中央にあり，西に日本史，東に考古・東洋史・西洋史教室に挟まれた「歴史」の世界の中に位置していた．それゆえ私の思考はいつのまにか歴史的になっていた．それが大学改革の一環で2001年に文理融合の大学院環境学研究科が創設された際に，地理学教室は心理学，社会学教室と共に新研究科に所属替えとなり，地理学教室は理系・工学系と同居する新築の環境総合館に移動することになった．それ以来私の思考もおのずと「環境」へと入り込んでいった．その意味で本書のタイトルの「歴史と環境」は私にとっても地理学教室にとっても記念碑的な意味をもっていて感慨深い．

そんな歴史ある環境にあって，私はいかなる歴史地理学教育をおこなってきたのであろうか．学部生用の人文地理学講義ではもっぱらインド・バングラデシュのフィールドワーク話をしてきたし，大学院生を交えての歴史地理学講義では確固たる概論講義とは程遠く，ふるさと紹介を課題に出したり，古老へのライフヒストリーの聞き取りを発表させたりしてきた．そんな講義で明け暮れていたので，私には学生を指導したという感覚は全くなく，むしろ学生さんたちから学ぶことの方が多かった．本書に寄稿してくれた学生さんは皆，私が放任してきたにも関わらず，みずから育ってくれた方ばかりである．

寄稿論文はいずれも思い出深い内容で，ついついコメントしたくはなるが，それはここでは控え，順不同，君・さん呼びで寄稿者にたいする思い出話でもってかえさせていただこうと思う．

論文中の地図書きは，私は得意な方であった．それが手書きの時代からコンピューターグラフィックの時代に入ったことにより，学生さんたちの作成図に私は太刀打ちできなくなってしまった．そんなときにGISソフトの一つであるマンダラを開発した谷謙二君がソフトを提供してくれたのだが，うまく使えない．そこで，まず西村雄一郎君がわがコンピューターのセッティングをしてくれ，私が論文を書くたびにマンダラ・ユーザーのNo.1と豪語する土屋純君がそのつど図を書いてくれた．この３人の援助がなかったら私は今の時代に生き延びていけなかったであろう．

そういえば，手書き地図の時代にも私より腕が良かった学生さんがいた．

山元貴継君である．私が名古屋市史編さん中に発行した『江戸期なごやアトラス』1998では山元君が大いに力を発揮してくれた．地図書きだけでなく写真撮影の技術にたけているのが富田啓介君である．『藤岡20世紀のあゆみ』や『名古屋市中区誌』の自然誌部門に出色の原稿を寄せてくれた．

文学部所属時代の最後の助手でイトケンさんと慕われていた伊藤健司君には，『地理学教室50周年記念誌』1999の作成の際に，OG で研究室補助員の酒井さんとともに資料集めからレイアウトまで随分とお世話になった．イトケンさんより先輩で私の名大赴任とすれ違いになった OB に林業研究者の中川秀一君がいる．氏は私の最初の屋久島調査に同行してくれ，安房からの縄文杉登山行の苦楽を共にし，後日参加者で作成した『屋久島報告書』では林芙美子ばりの文才を発揮してくれた．

女性陣に目を向けてみよう．池口，石川，服部と３人名を連ねると，フィールドワークは女性に限る，と感心を通り越して敬服してしまう．池口さんは歴代院生の中でも英会話能力が抜群であったが，そんな彼女が「私は英語よりもコスラエ語が得意なんです」とつぶやいた時，この人は何者かと思った．大学院に入る前にミクロネシアのコスラエ島で青年協力隊の一員として貝の養殖をしていたそうだ．そうした経験があるが故に博士論文でのベトナム調査もなんなくやってのけてしまった．石川菜央さんは学部時代に国文学から転専攻してきた学生さんで，宇和島実習で闘牛に巡り合ってからは隠岐，新潟，徳之島へと足をのばして成果を出した．その後の経歴もユニークで，広島大学の博物館勤務をへて，この４月から宇宙飛行士の毛利さんが館長の日本科学未来館の科学コミュニケーターとして活躍している．最後に，現役で博士後期課程３年に在学中の服部亜由未さんはニシンに取りつかれて北海道通いを続けている．続々と新しい資料を発掘してくるので感心する．

大学院修士課程を経て高校の教諭になった２人に鈴木允君と村田祐介君がいる．学生指導あり，クラブの顧問あり，で大変な中，鈴木君には『豊田市史』の人口部門を担当していただいていると同時に，松本市にある国の重要文化財である馬場家住宅に通い文書撮影の協力を得ている．村田君には在学中時代にわが基礎セミナーの種子島行きに TA として付き添ってもらった．キャンプファイヤーでの一コマ．汗水たらして調査していた学生に向って，「頑張っている姿をみて感動した．すばらしい」と涙を流して話しかけていた光景が瞼に残っている．彼はきっと素晴らしい教員になるだろう，と思った．

私が富山大学から1996年に名大に赴任して最初の仕事が阿部康久君の投稿

論文の添削であった．真っ赤に直した記憶がある．その後は放任していたが，いつのまにか中国語をマスターし，中国行きも何度かおこない留学生をも指導するまでに成長してくれた．今回の本書出版の企画から原稿集めまでを一手に引き受けてくれた阿部君に敬意を表したい．同時に心のこもった原稿を寄せてくれた上記の各位に心より感謝したい．

原稿の内容が多岐にわたっているのは，彼らの指導が私１人の手によるものではなく，大学院ゼミは全教員参加という名古屋大学地理学教室の良き伝統の賜物である．この場を借りて院生にも小生に対しても温かく支援してくださった地理学講座のスタッフ一同に謝意を表したい．

末筆になりましたが，厳しい出版事情にもかかわらず本書の刊行をご快諾いただいた花書院様に，篤くお礼申しあげます．表紙に提供させていただいた睡蓮の花は，バングラデシュの国花でベンガル語でシャプラといいます．過酷な環境の中，毎年押し寄せる洪水にもめげず可憐な花を咲かせます．花だけではありません．茎も食用として定期市で売られます．みなさんに「シャプラのように」との願いを込めて本書の結びとさせていただきます．

溝口　常俊

歴史と環境

―歴史地理学の可能性を探る―

編者／溝口常俊・阿部康久

2012年12月20日　初刷発行

発　　行　　有限会社 花書院
〒810-0012
福岡市中央区白金２－９－２
TEL 092-526-0287
FAX 092-524-4411

印刷･製本　　城島印刷株式会社

©2012 Printed in Japan
定価はカバーに表示してあります。
万一、落丁・乱丁本がございましたら、弊社あてにご郵送下さい。
送料弊社負担にてお取り替え致します。